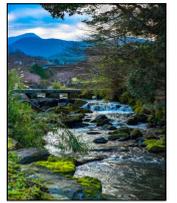


医師会だより



乳幼児予防接種

感染症予防にワクチン接種

子供は抵抗力が弱く感染症にかかると重い後遺症が残ったり、命が脅かされることもあります。そうならないように予防する一番確実な方法は予防接種です。

多数のワクチン接種が必要

予防接種は生後2ヶ月から始まりますが、1歳までに接種する主なワクチンだけでも6から7種類あり、それぞれ複数回の接種が必要で、合計すると15回以上接種することになります。その上、ワクチン毎に接種できる時期が異なり、次のワクチンを打つまでの間隔にも決まりがあります。これを守り一つずつ行っていくと、全部終わるまでにかなりの時間がかかる上に、毎週のように病院に通院する

”あなたの笑顔が必要です！”

大村市医師会潜在看護師研修事業

看護師への復職を考えている方、復職のための研修を受けてみませんか。

詳しくは大村市医師会まで。

ことになり、保護者や子供にも過大な負担となります。ワクチンを同時接種することで負担を軽減することができます。

同時接種で負担軽減

同時接種とは一回の通院で二種類以上のワクチンを接種することで、世界では十年以上前から行われていて、同時接種を行うと必要な免疫を早くつけることができます。一種類ずつの間隔を空けて接種した場合と比べて効果に変わりなく、副反応が出やすくなるというところはありません。一回に同時に打つワクチンの種類や本数の組み合わせに制限はありません。

定期接種と任意接種

ワクチンには、予防接種法で定められ必ず行わないといけない

「定期接種」とそれ以外の「任意接種」があります。「任意接種」は「費用が高く、症状が軽い病気だから接種しなくても良い」と思っている保護者もおられますがそうではありません。「任意接種」に含まれる病気でも重篤な病気もあります。経済負担は大きくなるかと思えますが、接種されることをお勧めします。

かかりつけ小児科医

大切な子供さんが早く免疫を持ち、怖い病気から守ってあげる事が大切です。その為にも「かかりつけ小児科医」を持つ事は重要です。予防接種に何度となく通院して先生や看護師さんと顔なじみになれば、ワクチンの事ばかりではなく、いろんな病気について相談しやすくなります。また、普段の元気な状態を知ってもらおう事で、子供さんの様子がいつもと違う時には早く気づいてもらえます。一ヶ月健診の時に産婦人科の先生から、小児科の先生を紹介してもらい、早目に予防接種のスケジュールを組んでもらうと良いでしょう。

予防接種が遅れている人へ

新型コロナウイルス感染症が拡大し、医療機関受診による同感染症罹患を心配することによる「予防接種控え」が全国的に問題となつています。予防接種が遅れることにより子ども達への悪影響には以下のようなことが考えられます。

- ①接種しないことによりその子どもが感染症に罹患してしまふ
- ②子ども達の予防接種率が低下することによりその感染症が集団で流行する

感染者と接触を避ける工夫を安心してすぐに相談を

かかりつけ医によつては予防接種を実施する曜日や時間帯を設定したり、予防接種用のために別の部屋を準備するなどして感染症罹患患者さんとの接触を避けるような工夫をし安心して予防接種を受けることができるようにしているところもあります。予約時に受診の仕方などを相談されると良いでしょう。

【医心伝心】

十月からインフルエンザワクチンの予防接種が始まります。確実に受けるために、早目の予約をお願いします。